

『竹取新聞』でも掲載している「室礼（しつらい）」
 一昨年実施した社内インタビューのご紹介です。
 日々の暮らしや行事の参考になれば幸いです。



二月 節分

季節の変わり目には邪気（鬼、魔物）が生じると考えられており
 その邪気を祓う行事。

一節分はどういった行事なのですか？

宮前 節分は、立春の前の日ということで大晦日と同じ感覚で春が始まる1年の節目です。子どもの頃から、豆まきや歳の数だけの豆を食べるなど行っていました。邪気払いや無病息災という意味があるのだと室礼を始めてから改めて感じるようになりました。「一陽来復」の御守りも毎年恵方にむけてはったりしていますが、その理解の深さなどには自信はないものの、やっぱり長年かけて、昔の人たちがやってきたことの意味は大事にしたいと思っています。

特に、子どもたちに繋がると言う意味では、大人の私たちが大事に、楽しくやっていないと途絶えてしまいます。楽しいと残ると思いますし、行事は苦しいものではないと思います。鬼退治用の柊の葉っぱも、室礼1年目には探せなかったのですが、それから意識して身近にある植物などに目を向けるようになり、今では自宅や会社付近にどんな植物があるかなども以前より詳しくなって、自然が身近に感じられています。毎年変わるのも面白いです。季節の変化を都会で感じることは、特に難しいものですが、行事や室礼を



その年の恵方を調べています！

通して触れやすくなります。「都会だからできない」ではなく、「都会でも楽しんでじゃおう！」というのが私たちの取り組みでもあると思います。一室礼、節分のお話ありがとうございます。今年の「節分」はどうなるのか待ち遠しくなりました。ありがとうございました。

2月の室礼

鬼を追い払うための武器になる豆と柊。「豆」は、魔目（豆・まめ）を鬼の目に投げつけて鬼（魔）を滅する「魔滅」に通じ、豆を入れた「柊」は、「一柊（ひとます）」を「一柊（いっしょう）」と読んで、人の「一生（いっしょう）」にかけた言葉の盛り物です。

「鬼の面」は半分に折って控えめにし、家をこっそりのぞいている様子を表しています。

